

令和7年12月15日

佐野市議会議長 菅原 達 様

経済文教常任委員会委員長 小 倉 健 一

経済文教常任委員会 行政視察報告書

1 期 日 令和7年10月29日(水)から 10月31日(金)

2 視察地及び視察事項

(1)長野県長野市

「教育支援センターSaSaLANDについて」

長野市教育委員会 学校教育課長 佐久間清也 氏

長野市議会事務局 次長兼課長 竹内徹 氏

(2)岐阜県飛騨市

「薬草ビレッジ構想推進プロジェクトについて」

飛騨市議会 議長 澤史朗 氏

飛騨市議会事務局 砂田健太郎 氏

飛騨市商工観光部 まちづくり観光課 資源係長 今村彰伸 氏

飛騨市商工観光部 まちづくり観光課 資源係主事 見山寛奈 氏

(3)富山県富山市

「富山市エコタウン」

富山市環境部 エコタウン交流推進センター 所長 藤根昇 氏

富山市環境部 廃棄物対策課 廃棄物対策係 副主幹(係長) 前田直樹 氏

富山市環境部 廃棄物対策課 廃棄物対策係 主任 人見信行 氏

3 派遣委員 小倉健一(委員長)、滝田洋子(副委員長)、菅原達、
栗崎卓二、茂木明男、堀川悦郎

4 随行者 議事課 議事調査係 係長 飯塚友美子

5 視察概要 別紙のとおり

(1)長野県長野市

長野市の概要

- ・人口：360,302人(2025年10月6日時点)
- ・面積：834.81km²
- ・議員定数：36人（現議員数34人）
- ・政務活動費：1,020,000円(1人／年間)
- ・長野市は長野県の県庁所在地として、行政機関や商業施設が集積する都市機能と、周囲を山々に囲まれ千曲川が縦貫する豊かな自然環境が調和した地域です。産業構造は、県平均と比較して就業者密度が高く、第三次産業(サービス業、卸売・小売業など)が全体の約3分の2以上を占める主要な経済基盤となっています。一方で、製造業も盛んであり、特に機械・電気・食品関連企業が集積し、地域経済を牽引しています。また、広大な市域を活かした農業も特徴で、市場性の高い果樹(りんご、ぶどうなど)やそばといった特産品の生産量は県内有数です。人口減少・少子高齢化といった課題に対し、市はAI・ICTを活用したDX推進や「長野地域連携中枢都市圏」の中心都市として圏域全体の経済成長を牽引する施策を進めています。

視察概要 「教育支援センターSaSaLANDについて」

○内容

長野市は、市内7カ所に「教育センター」を設置して、年々増加している不登校児童生徒に支援をしています。利用希望する児童生徒の要望に応えられない状態が続いていました。そこで、旧長野市立七二会小学校笹平分校を改修し、8カ所目の教育センター「SaSaLAND」を令和6年4月にオープンしました。

SaSaLAND の3つの柱

1 子どもたちの社会的自立に向けた支援

- ・多様な活動機会の提供(教室、共有スペース、校庭、体育館)
- ・メタバースを活用したオンライン活動
- ・七二会地域や近隣校との連携
- ・栄養バランスのよい食事(ランチ)の提供

2 保護者への支援

- ・保護者同士が交流する懇談の機会の提供
- ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどの専門家による相談対応

3 教職員等の不登校に係わる研修

- ・教職員対象の研修会
- ・地域の方々に温かく受け入れてもらえるよう勉強会の開催

SaSaLAND 利用状況

登録状況 : 登録人数 204人

開所状況 : 開所日数 221日

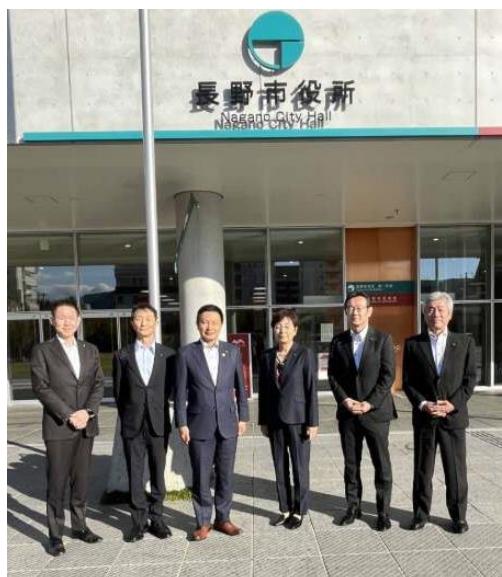
利用状況 : 利用人数 延べ 7,835 人 1 日平均 35,5 人

○所感

長野市教育委員会事務局学校教育課

教育支援センターSaSaLAND の説明を受けて、長野市では、子ども・保護者を真ん中にし、その周りには、いろんな支援に係る人や民間施設があります。学校 SaSaLAND の取組を生かした校内支援センターづくり、教職員の研修の実施、自宅では、メタバースへの参加、フリースクール等民間施設との繋がり、学びの場の情報提供や相談を目的とした、説明会の開催といろんな方向から支援を行い、子どもたちの社会的自立に向けた支援が行われていると感じました。

SaSaLAND の取組を参考に佐野市にも提案していきたいと思います。



(2) 岐阜県飛騨市

飛騨市の概要

- ・人口: 21,500 人(令和7年4月1日現在)
- ・面積: 792.53km²
- ・議員定数: 14名
- ・政務活動費: 120,000円(1人/年間)

・岐阜県最北端に位置する飛騨市は、周囲を 3,000m 級の飛騨山脈などの山々に囲まれ、市域の約9割以上を森林が占める自然豊かな地理的特徴を持っています。中心市街地は古川・国府盆地や河川沿いの限られた区域に形成されています。産業面では、非鉄金属製鍊や医薬品、自動車部品、木製家具、電子部品などの多様な製造業が盛んです。また、農業では肉牛畜産や、高冷地野菜(トマト、ほうれん草など)の生産が活発に行われています。観光業も主要な産業の一つであり、「飛騨古川の白壁土蔵街」や「古川祭」といった地域資源を活用した魅力的なまちづくりを進めています。人口減少という課題に直面しつつも、地域活性化を目指した様々な取り組みを行っています。

視察概要 「薬草ビレッジ構想推進プロジェクトについて」

○ 内容

・飛騨市の薬草事業

飛騨市は面積の9割以上が森林に覆われる自然豊かな地域で、豊かな森や水に育まれた薬草などの有用植物が245種確認されています。当地の貴重な地域資源である薬草の可能性を見つめ直し、薬草を活用した「市民の健康づくり」と「地域の活性化」に官民一体で取り組んでいます。

◇薬草拠点「ひだ森のめぐみ」(今回事前立ち寄り)…

薬草に関する情報発信・交流拠点として、令和元年10月、古川町にオープン。

商品販売や、薬草体験、薬草加工、展示、関連情報の発信などを行っています。

→令和6年度 5,793 名来店

◇全国薬草フェスティバル…

全国の薬草関係者が集まり、交流するイベントを市内で毎年開催。物販、ワークショップ、展示、講座など、全国から様々な団体が参加。

→令和6年度 72団体出店(北海道～台湾) 1,500 人来場

(令和7年度も10月に開催。2日間 2,500 人来場。)

【市民の健康づくり】

継続した薬草の普及活動を行い、市民の健康意識向上、生きがい創出などを目指しています。

・薬草活用講座 ・富山大学連携講座 ・薬草苗等の配布 ・朝霧の森の整備

【地域の活性化】

薬草を地域の魅力的なコンテンツとして磨き上げ、「薬草のまち・飛騨市」が全国の薬草関係者の交流拠点となることを目指しています。

- ・飛騨市薬草商品の開発(18事業61商品)
- ・草福連携
- ・薬草を学ぶツアーの開催
- ・市外での PR

○所感

平成28年、現都竹市長が資源を磨き上げることを掲げ、目玉の事業として踏み込まれたその経緯には「NPO 法人 薬草で元気にする会」のきっかけを生んだ薬草研究者村上氏との関係、積極的なアイデアを重ねる職員の存在などが事業へ結ばれ、のちの市民活動へ拡げられていることが分かりました。まさにシビックプライドの醸成(住民が自分の住むまちに誇りと愛着を持つことを育む取り組み)に繋がっている事業であり、構築の在り方は本市においても大変参考になりました。

関係人口創出の点では不特定多数をとらえず「刺さる人に刺されればよい」という考え方で一過性の数を負うものではなく、長期的に支えてくれる人(従来の誘客と異なった視点、まちづくりパートナーとして)を見据えて行っていることも理解できました。

本市は61%が森林。広葉樹面積等山の状況は異なりますが、とくに中山間地域では資源を有効に活用し、自然と共に生活してきた歴史があります。「奥佐野」をキーワードに活性化を展開していますが、いかに魅力を深堀りし、心通う場の佐野市とできるか、さらなる地域の活力向上に向け取り組んで行かねばならないと思います。



(3)富山県富山市

富山市の概要

- ・人口:414,102人(令和6年3月31日現在)
- ・面積:1,241.7km²
- ・議員定数:38名
- ・政務活動費:600,000円(1人/年間)

・富山市は、地理的には、水深1,000mの富山湾から標高3,000m級の北アルプス立山連峰まで、標高差4,000mにおよぶダイナミックで多様な地形が特徴。気候は降水量が多く、日照時間が比較的少ない特性があります。産業面では、古くから「くすりのまち」として知られる薬業の伝統に加え、化学工業(医薬品)、機械部品などを中心とした製造業が集積する「ものづくり都市」としての性格が健在であり、豊富な水資源や地理的優位性を活かした産業基盤も強みとなっています。人口一人当たりの製造品出荷額等は全国トップクラスで、地域経済を支えています。

視察概要 「富山市エコタウンについて」

○内容

〈ゼロ・エミッション構想を推進し、循環型のまちづくりを推進〉

【エコタウン事業】

ある産業から出るすべての廃棄物を、新たに他の分野の原料として活用し、あらゆる廃棄物をゼロにすることを目指す「ゼロ・エミッション構想」を基軸に、地域の振興を図りながら、環境と調和したまちづくりを推進する事業。

エコタウン制度は、経済産業省と環境省により平成9年度に創設。富山市はエコタウンプラン(環境と調和したまちづくり計画)を策定し、平成14年5月に、全国で16番目、北陸では初めて承認されました。富山市では、このエコタウンプランに基づき、地域の独自性をふんだんに廃棄物の発生抑制・リサイクルの推進により、既存の枠にとらわれない、先進的な境調和型まちづくりを行っています。

【富山市が進めるエコタウン事業】

既存の北部工業地帯にある工場跡地。約18haを「エコタウン産業団地」として、資源循環拠点に位置づけています。このエコタウン産業団地に、リサイクル施設を集約するとともに、エネルギー利用も含め団地内のゼロ・エミッション化を進めています。

第一期事業として、平成15年度には、ハイブリッド型廃プラスチックリサイクル施設、木質系廃棄物リサイクル施設、生ごみ及び剪定枝のリサイクル施設、自動車リサイクル施設の4施設が操業を開始。このことにより、マテリアルリサイクルを優先した地域内での資源循環が前進しました。また、第二期事業として、平成17年度には廃合成ゴムリサイクル施設、平成18年度には、難処理纖維及び混合プラスチックリサイクル施設、廃食用油リサイクル施設、平成22年度には廃棄物エネルギー

ーセンター施設の4施設が操業を始め、サーマルリサイクルも含めた資源循環を推進しています。

また、エコタウン交流推進センターを整備し、平成17年度から環境学習と環境活動の拠点施設として、エコタウン産業団地への見学会や啓発事業などを行っています。

○所感

今回エコタウン交流推進センターで説明を受けた後、7つの事業所のうち2つの事業所を見学。分別の難しく手間のかかる混合廃棄物処理の現場では破碎と選別、成型の過程で固体燃料として生まれ変わる工程を見ることができ、他の再資源化に比べ1/2の価格で仕上がる事からも、今後も製紙用ボイラーをはじめ需要が高められていくものと推察できました。エコタウン事業を進める中において、サーキュラーエコノミー(循環型経済)として採算ベースに重きを置かれ、利益を上げながら資源効率化を上げていくこと強く意識されている点など理解できました。

富山市では国との連携、コンパクトシティ戦略との連動のもと「ゼロ・エミッショն」を目指し計画策定、エコタウンの整備となっております。本市においても今後、既存市有施設等の更新維持の方向性において、環境配慮の取組には、複合的な整備計画として、廃棄物を出さない設計、資源の循環(3R)や既存市有施設等の再生可能エネルギーの利用も含め、資源の地域内循環を見据えた環境・リサイクル関連企業誘致に対し、積極的なアプローチを進めていかなければならないと感じました。

